

# あつめよう

“ 農地集積でより良い営農を築こう ”



大曲地区で東日本大震災による未曾有の津波被害から地域の理解を得て再生を図った法人の皆さん

## 農地集積に関する各地の主な行事等

- 大河原地方農地集積指導チーム : 2月8日 平成28年度農地集積状況の実績確認調査を実施  
3月15日 平成28年度第2回農地集積活動検討会を実施
- 仙台地方農地集積指導チーム : 2月21日～3月2日 平成28年度農地集積実績確認及び農地集積戦略会議を実施
- 北部地方農地集積指導チーム : 2月16日～3月7日 平成28年度農地集積の実績確認及び第3回大崎地域農業農村活性化推進会議を実施
- 栗原地域農地集積指導チーム : 2月8日～15日 平成28年度農地集積実績確認調査を実施  
平成28年度第1回農地集積戦略会議を実施  
3月13日～15日 平成28年度第2回農地集積戦略会議を実施
- 登米地域農地集積指導チーム : 2月2日～3日 平成28年度農地集積確認調査及び第3回農地集積推進戦略会議を実施
- 東部地方農地集積指導チーム : 2月13日～20日 平成28年度農地集積実績確認調査を実施  
3月7日～9日 平成28年度第3回農地集積戦略会議を実施  
3月16日 平成28年度第3回石巻地域農地集積指導チーム会議を実施
- 農村整備課 : 平成28年度農地集積実績の速報値取りまとめを実施中
- みやぎ農業振興公社 : 平成28年度農地集積実績確認調査及び農地集積戦略会議等に出席
- 宮城県土地連集積班 : 平成28年度農地集積実績確認調査及び農地集積戦略会議等に出席

換地部集積班

# 特集：おらほの担い手

## 1. 地区のようす

大曲地区は宮城県東部の仙台市の北東へ40km、石巻広域圏の西部、北上川の下流右岸に位置し、東北地方では比較的温暖で風雨の少ない地域です。

当地区は、平成21年に農地集積加速化基盤整備事業を実施し、上納工区(A=10ha)では完成間際で大震災が発生、平成24年9月計画変更を行い、農地復旧・除塩作業などの災害復旧事業と新たに浜工区を編入し、10a区画から1ha区画に再整備する復興交付金農地整備事業を実施し、現在に至っています。

採択前は個別経営農家が水稲と露地野菜、施設園芸等を組み合わせた複合経営で、担い手は組織化し大豆栽培を行っていましたが、事業を契機に担い手農家8戸と生産組織1組織を育成し、事業地区を中心とした基幹作業の受委託等を目指すことに成りました。

しかし、そこを襲った大震災によって計画は大幅に変更を余儀なくされ、戸別担い手農家での経営再建は厳しく、検討に検討を重ねた結果、担い手農家2戸と農業生産法人1法人での再生を目指すことに成った地区です。

また、農地中間管理事業の活用に向け、「大曲地区農用地利用改善組合」を平成25年2月26日に組合員189名、加入面積52.57haで設立し、ほ場整備地区の維持管理費に充当し施設管理経費の軽減を図っています。

事業名：農山漁村地域復興基盤整備事業  
農地整備事業(経営体育成型:面的)  
※農地集積加速化基盤整備事業からの乗り換え

関係市町村：東松島市

工期：平成21年度～平成30度

受益面積：A=142.4ha

農家戸数：137戸

総事業費：1,740百万円

H28実績集積面積：114.92ha(うち面的108.67ha)

H28実績集積率：80.70%(うち面的76.31%)

H31促進計画目標集積面積：88.97ha(うち面的75.45ha)

H31促進計画目標集積率：62.47%(うち面的52.98%)



## 2. 法人化へのきっかけと支援

今回紹介する「株式会社ぱるファーム大曲」は、地区の農業生産法人として震災の翌年、平成24年12月6日に設立された法人です。

同法人の設立のきっかけは、東日本大震災の津波被害により農地のほぼすべてが被災し、農業機械等も全て流され、個々での再建はおろか法人の前身である大曲生産組合(オペレーター6名/平成19年3月25日設立)は離農する組合員も出て来るなど、再出発も危ぶまれたが大曲地域の農業復興の方策を検討した結果、地区の農地全体を担える法人を設立することで合意が得られ、営農再開を希望する担い手4名で法人を設立しています。

構成員は現在3名、常時雇用4名、パート13名で、水稲と大豆と麦を中心とした2年3作の他に周年雇用を図るために契約栽培のミニトマトを取り入れた経営を行い地域農業を展開しています。

地区の基盤整備関連経営体育成等促進計画では、2戸の担い手農家と1つの法人が占める地区全体の集積面積割合は62.47%(集積面積88.97ha)で、うち当法人は51.88%(73.88ha)を担う事になっています。

法人化へ向けた支援は、農業改良普及センターを中心に東松島市・JAいしのまきが連携し行いました。

### 3. 農業生産法人「株式会社 ばるファーム大曲」の概要

#### (1) 概要

- ・名称: 株式会社 ばるファーム大曲
- ・構成員: 3名
- ・常時雇用: 4名
- ・パート: 13名
- ・役員数: 3人(代表取締役1名、常務取締役2名)
- ・法人の経営面積: 116.8haうち地区内99.2ha(うち面的集積95.6ha) ※平成28年度実績より
- ・作付作物: 水稻86ha、大豆28ha、施設トマト50a、露地ねぎ30a、露地ほうれん草15a、軟弱葉茎菜(ハウス利用)40a

#### (2) 法人設立までの経緯

- ・H19年3月25日 大曲生産組合設立(集落単位の3つの転作組合を合併)
- ・H23年3月11日 津波による被災
- ・H23年11月～H24年11月 法人設立勉強会及び設立準備(地権者14戸参加)
- ・H24年12月6日 設立総会
- ・H24年12月6日 法人登記
- ・H25年2月27日 認定農業者取得

#### (3) 経営目標(H28年度以降)

- ・水稻100ha
- ・大豆50ha
- ・麦類50ha

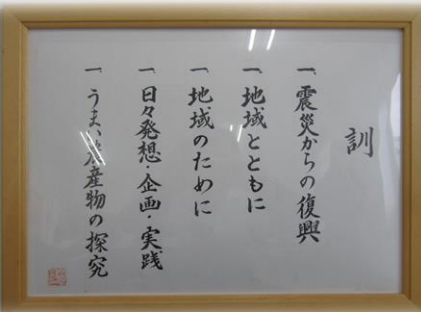
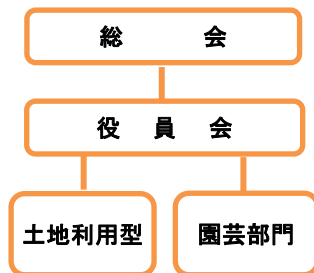
#### (4) 法人の目標

- ① 持続的な雇用確保やより効率的な作付体系の確保。
- ② 加工部門の導入等による収益性の向上を目指す。



<法人の施設>

#### (5) 組織図と社訓



#### (6) 経営規模(実績)

区分	1年目	2年目	3年目	3年目
	H25	H26	H27	H28
水稻	22.0	40.0	61.0	87.0
大豆	8.0	10.0	23.0	29.0
麦	-	-	-	10.0
計	30.0	50.0	84.0	116.0

(単位: ha)

目標
H30
100.0
50.0
50.0
150.0

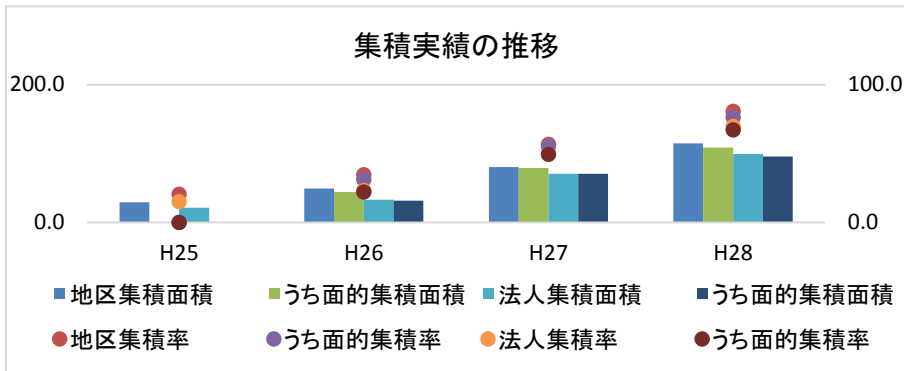
(H28水稻作付品種)  
 ・ひとめぼれ 58.3ha  
 ・ササニシキ 15.0ha  
 ・つや姫 2.0ha  
 ・みやこがね(餅米) 0.6ha  
 ・金のいぶき 1.0ha  
 ※麦の作付はH29収穫分

※H28年産の10a当たりの収量(ひとめぼれ8.5俵、ササニシキ9.0俵、つや姫8.5俵、みやこがねもち7.5俵、金のいぶき7.5俵程度)

#### (7) 地区の集積と法人の実績

(単位: ha、%)

区分		H25	H26	H27	H28
地区全体	地区集積面積	29.2	49.3	80.6	114.9
	地区集積率	20.4	34.5	56.6	80.7
	うち面的集積面積	0.0	44.3	78.7	108.7
	うち面的集積率	0.0	31.0	55.3	76.3
うち ばるファーム 大曲	法人集積面積	21.4	33.0	70.6	99.2
	法人集積率	15.0	23.2	49.5	69.6
	うち面的集積面積	0.0	31.6	70.5	95.6
	うち面的集積率	0.0	22.1	49.5	67.1



#### (8) 施設設備

- トラクター
  - ・98ps 2台
  - ・75ps 1台
- 田植え機
  - ・8条植え 2台
- コンバイン
  - ・6条刈り 2台
- 汎用型乾燥調製施設
  - ・100ha規模
- その他
  - ・機械格納庫、水稻育苗ハウス(40a)、鉄骨ハウス(50a)、乗用管理機1台、野菜移植機1台ほか



<稲刈りとミニトマトの収穫作業>



#### (9) 生産販売品目

- 水稲と大豆を中心に、ハウス栽培のミニトマト(全農契約栽培)を取り入れ、JAへ全量出荷を行っています。

#### (10) 農地集積

- 農地中間管理事業と農地整備事業実施地区との連携の観点から平成27年度には、個別担い手農家と共に農地中間管理事業を活用(50.2haうち法人44.8ha)し、農地の利用集積を進め経営規模の拡大を図っています。
- なお、地域集積協力金は「大曲地区農用地利用改善組合」が受け入れ、水利費やポンプの整備費(維持管理費)として有効利用を行っています。

#### (11) 活動の特徴

##### 【減農薬による環境保全米の生産】

特別栽培米として減農薬使用に努め「環境保全米」として、全てJAへ出荷しています。

##### 【多面的機能の維持、発揮を図るための活動】

当法人は、平成26年7月9日に設立された大曲地域資源保全会の構成員として上納支部に加わり、東松島市大曲に存する農用地、水路、農道等の地域資源の保全に唯一の法人として積極的に活動(トラクター等での除草)を行っています。



<地域資源の保全管理活動作業>

#### (12) 後継者の育成

- 通年雇用を目指して園芸部門を拡充し、施設トマト栽培等に取り組んでいます。

#### (13) 地域貢献

- 地区内の農家に対する飯米の斡旋や被災農家を社員やパートとして雇用し、「地域とともに、地域のために」を社訓に掲げ、地域との繋がりに力を入れています。

#### (14) その他

##### 【法人化に向けての提言】

- 法人を設立するためには、地域の理解のもと役職員が一丸と成って安定した経営を常に考え、農業経営の継続に向けた後継者の育成を図りながら地域農業を守ることが法人としての重要な役割と考えます。

#### 【問い合わせ先】

宮城県土地改良事業団体連合会 (水土里ネットみやぎ)  
 換地部集積班  
 〒980-0011  
 仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390